
雨が降る度に。

ルエル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨が降る度に。

【Nコード】

N1594W

【作者名】

ルエル

【あらすじ】

雨が降る度に。この通りを見る度に。通る度に。ふと、思い出してしまふ。そして、改めて決意するんだ。『背負っていく』と。

(前書き)

2011年8月26日に起こった事と、思った事を合わせてまとめてあります。

電車の窓から響く、雨の音。

進行方向から降っている所為か、バチバチと鋭い音をたてている。

家の最寄り駅の1つ手前で下りて、雨の中を独りで歩く。

目的地は、狭いのにバスが通る、このバス通りの先。私の母校だ。

傘から聞こえる雨の音。足下で、ぴちゃぴちゃと鳴きながら大きくなる水溜まり。

車の音、歩く人々、タイヤと水の擦れる音……。

それら全てが相まって、一繋がり記憶を呼び起こす。

そういえば、もうすぐ1年か…。

ふと、思う。

1年なんて、早いものだ。

あんなに周りを巻き込んで。仲違いして。泣いて。怒って。

『あれ』をきっかけに、私の世界は90度変わった。

そんな風に思っていたけど、実際は違うのかもしれない。

『あれ』の後、文化祭以降に何回、会っただろうか？

何回、泣いただろうか？

正確になど覚えていないので、不等号を用いてみよう。

答えは、「会った回数>泣いた回数」だ。

そうすると、どうしても“仲違い”が嘘になる。

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」
やっぱり、90度も変わっていない様だ。
だけど、この記憶は、この感覚は、忘れないだろう。
いや、『忘れられない』が正しいか。

最初の好きから、あの子の事まで。
全ての元凶は私なのだから。
だから、『忘れてはいけない』

自分の胸が苦しくなっても。これは、背負うと決めたから。

もう、どんなことがあっても絶対に揃うことのない4人。だからこ
そ、背負う。

同じ事を繰り返さない為に。

びちゃっ

.....あ。

そんな事を考えていたら、深い水溜まりに足を突っ込んでいた。
両足とも、水に侵食された。

これから、学校に入ると言うのに。
道の選択を誤った。

本当、雨の日はツイてない…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1594w/>

雨が降る度に。

2011年10月8日01時36分発行